

ベルマーク便りコンクール2022 入賞校を訪ねて②

漫画で運動のしくみを解説

優秀賞・大田区立調布大塚小

東京都大田区立調布大塚小学校（玉野麻衣校長、児童364人）のベルマーク便りが、優秀賞を受賞しました。「教えて！ Mr. リサイクル<ベルマーク編>」と題した、A4サイズ8ページの漫画でベルマーク運動のしくみを説明しています。

同小は1998年に参加登録をしましたが、2020年に活動を休止。しかし、再開を望む声があったことから、今年度から再度取り組むことにしました。

PTA 役員のメンバーは開始までの半年間、活動の進め方について意見を出し合い、準備を進めました。思いついたのが、漫画を通じた周知活動です。何度も構成や

セリフ、説明文を練り直しました。

漫画を描いたのは、昨年度に会計係を務めた石本麻衣子さん。登場人物は、主人公のA子ちゃん（小1）、お兄さんの英介（小4）、調布大塚小オリジナルキャラクターの「Mr. リサイクル」、ベルマーク財団のキャラクター「ベルマークくん」です。

ストーリーは、マークを集める目的が分からないふたりの前に「Mr. リサイクル」が登場し、「ベルマークくん」を特別ゲストとして招いて勉強していくという話です。漫画を通して「自分たちの出来る範囲で、楽しみながら取り組もう」と呼びかけました。



①前列左から西山さん、石本さん、吉浜さん、後列左から齋藤さん、向井さん、久保田さん、神谷さん ②スーパーでも協力をよびかけ ③昇降口にある引き出し型の仕分けBOX ④カラフルな壁が特徴的な校舎

読者からのレスポンスが励みに

佳作・京都市立桃山東小

京都市立桃山東小学校（河原雅春校長、児童530人）が佳作に選ばれました。お便りを作っている中塚香保理さんは、4年前から毎年応募し、今回、念願の初入賞となりました。

中塚さんが、PTA 学活委員長になったのは2019年。当時、ベルマークの仕分け・集計は学活委員の保護者だけが担っていました。

中塚さんは活動の効率化を図ろうと、お便りで改めてベルマーク運動の意義を伝えたり、マーク集めのコツをお知らせしたりなど、アイデアを行動に移してきました。特に効果があったのは、自宅でも仕分け・集計が

出来るように中塚さんが考案した封筒のテンプレート。A4サイズ1枚の紙から、6枚のミニ封筒を作ることができます。一斉集計の効率化に役立ちました。

4年目の活動となった今年度。PTA 本部の監査をしながらチャレンジしたのが、ベルマーク便りのペーパーレス化です。手書きのお便りをPDF化し、市の学校のシステムを使ってメールで配信。夏休み期間には、週2回の早いペースで情報を届けることに成功しました。

「お便りは読んでくれた方から『知らなかった!』などのレスポンスもあるので、今後もマイペースで配信し続けたい」と中塚さんは話してくれました。



①手作りの小分け回収箱。子どもたちも仕分けに協力してくれる ②河原雅春校長（左）と中塚香保理さん ③中塚さんが考案したミニ封筒

取り組み見直し、まずは試すことから

佳作・鎌倉市立小坂小

佳作を受賞した神奈川県鎌倉市の市立小坂小学校（安齊佳子校長、児童618人）の活動を担っているのは、保護者のベルマーク委員会です。応募してくれたのは委員長の能仁奈生子さん。今年度、お便りを作っているのは副委員長の久保田友美子さんです。小坂小のお便りにはたくさんの情報が盛り込まれていますが、イラストと文字量のバランスや、レイアウトがよく考えられていて、とても見やすいことが特徴です。

参加登録は1963年。今後も活動を長く続けるため、昨年度から活動方法の見直しに力を入れてきました。

大きな反響があったもののひとつが「ウォールポケッ

ト」です。協賛会社別のウォールポケットを使えば回収の時点で仕分けに協力してもらえます。これまで、学校に持ってきたマークは箱にそのまま入れていたことから、ポケットの設置は大きな変化でした。「紙袋を使って低コストで仕上げ、子どもも楽しみながら仕分けられるよう可愛さにも気を配りました」と能仁さん。

委員へのアンケート実施や、コンクールへの応募も初めてのチャレンジでした。この1年間は「活動をよりよいものにするため、とにかく試した年でした」と能仁さんと久保田さん。「活動のしやすさを一番大切に、この先も活動が続けばいいな」と話してくれました。



①考案したウォールポケット ②ベルマーク委員の皆さん。前列中央が能仁奈生子さん、その右が久保田友美子さん ③仕分けの様子

創立50周年のお買い物ものに向けて

特別賞・真岡市立真岡西小

栃木県の中でも特にいちごの生産量が多い真岡市にある、市立真岡西小学校（櫻井明彦校長、児童806人）の「ベルマークだより」が特別賞に選ばれました。

今年度は、PTA 厚生委員会の10人がベルマーク活動をしています。集計は月1回、アプリで参加者を募っています。柔軟に対応できるように、2ヵ月ごとに予定を決めるようにしました。「回収枚数が多くなる7月などは、集計日を増やします」と教えてくれたのは、お便りを担当している委員長の三好薫さん。まん延防止等重点措置の期間は、在宅での集計に切り替え活動を続けました。

三好さんは昨年、月1回のペースでお便りを発行。

行間をあけて読みやすく、シールや上下の縁取りで目を引くように回収方法や集計結果などを伝えました。

活動には、児童の厚生委員会の25人も協力。お昼の校内放送や、年1回の児童集会で回収を呼び掛けます。週1回、牛乳パックで作ったBOXに、協賛会社ごとに仕分けてくれるそうです。

地域の協力も大きく、学校周辺のスーパー4店舗に回収箱を置き、カートリッジ類も回収しています。

2025年には創立50周年を迎える真岡西小。「児童とPTA、地域と取り組む活動の成果として、記念になる物の購入を考えています」と、出口妙子先生は話しました。



①カラフルな仕分けBOX ②左から出口妙子先生、高田雅子さん、三好薫さん、柴田亜季奈さん ③職員室には「真岡木綿」ののれん